



目次

◆支部の動き	1	■会員数	5
■支部報 保護・調査記事関連トピックス	1		
◆事務局からのお知らせなど	5		
■ゆうちょ銀行の引き落とし手数料変更について ..	5		

◆支部の動き

■支部報 保護・調査記事関連トピックス

本記事は日本野鳥の会へ送付されてきている各地の支部報/会報から抽出して作成し、調査・保護に関心がある野鳥の会の会員へ配信しております。本記事の一部又は全部を不特定多数が見る可能性があるところへ公開される場合は、各支部/各会の了承を事前に得て下さい。記事は筆者の意向に反しないように、取り扱いをお願いします。

NO. 921

- 2019/1 根室
 - ・根室で見られる鳥
 - ・2018 年ビーチコーミング
 - ・春国岱にカラシラサギ
 - ・要望書提出 2 件
 - ・北海道のオオジシギ個体数調査
- 2019/1 埼玉
 - ・鳥星座
 - ・2018 秋シギ・チドリ渡り調査
- 2018/12 神奈川
 - ・調味料、香辛料の名が付く鳥
 - ・サシバの里から
- 2019/1 筑豊
 - ・メグロ
 - ・オシドリの世界
 - ・探鳥会で外来種駆除は許されるのか
 - ・かわいい鳥

●2019/1 根室

・根室で見られる鳥
北海道で観察された鳥類は約 470 種、内根室市では約 350 種。根室市ではホオジロ、ホオアカ、ヤマガラ、メジロ、コルリ、ジュウイチは少なかったが、最近、見る機会が増えている。例えばヤマガラは道内西部では多いが、東部では稀であった。ホオジロも繁殖期に観察されるようになった。

(根室「フレチカップ」NO. 106, P1)
(フレチカップ：アイヌ語で赤い鳥の意)

・2018 年ビーチコーミング

4/22、根室半島の太平洋側の約 5km で、海岸漂着物調査をした。油汚染の兆候はなかった。鳥類の死体はカモ科 3 種、アホウドリ科 1 種、ウ科 1 種、カモメ科 2 種、タカ科 1 種、計 8 種 16 個体で、大半は羽毛や骨の一部で同定は難しい。ピロードキンクロの板歯と呼ばれる嘴のギザギザが拾得された。

(根室「フレチカップ」NO. 106, P4~5)

・春国岱にカラシラサギ

8/6~10、春国岱でカラシラサギ 1 羽を記録した。春国岱ネイチャーセンターではこの 13 年間記録はない。繁殖地はロシア沿海州、朝鮮半島、中国東部で、越冬は沖縄、比島、スマトラ島。総数 2,600~3,400 羽とされ、準絶滅危惧（環境省）である。

(根室「フレチカップ」NO. 106, P7)

・要望書提出 2 件

5/11、支部は本部と連名で日本政府に日露共同経済活動での風力発電導入で、希少鳥類への影響を防ぐ取り組みを求める要望書を提出した。7/19、支部は釧路支部と連名で国土交通大臣、環境省、文化庁、北海道、厚岸町に、厚岸町で計画の高規格道路建設で希少猛禽類生息地保全に関する要望書を提出した。

(根室「フレチカップ」NO. 106, P7)

・北海道のオオジシギ個体数調査

全調査箇所 300 地点の内、根室支部内 30 地点を調査した。2018 年全道で約 35,000 羽を確認。30 年前の約 36,000 羽と大差はない。根室では約 7,500 羽で道内最多であった。支部は調査結果を風力発電のセンシティブマップに活かす。

(根室「フレチカップ」NO. 106, P8)

●2019/1 埼玉

・鳥星座

南半球も含め、88 個の星座がある。内 9 個は野鳥の名が付く。ハクチョウ、ワシ、カラス、ハト、ツル、鳳凰、巨嘴鳥、フウチョウ、クジャク座である。最後の 3

個は南に行かねば見られない。明るい1等星は全21個の内、7個が冬の星座にある。オリオン座大星雲は赤い鳥が大きく羽を広げているように見える。おおいぬ座のシリウス(-1.5等星)は最も明るい恒星である。カラス座は1月には明けの4時頃、南に小さな台形で見える。ギリシャ神話では当初は人の言葉を話す白いカラスであったが、カラスが神アポロンに妻の嘘の浮気を伝え、その後、単にカァカァと鳴く黒いカラスに変えられた。

(埼玉「しらこぼと」NO. 418, P2~3)

●2018 秋シギ・チドリ渡り調査

7月~10/15、会員有志で埼玉県内を調査した。今年は19種のシギ・チドリ類を観察した。前年は夏水たんぼの状態がよく、25種であった。

(埼玉「しらこぼと」NO. 418, P4)

●2018/12 神奈川

・調味料、香辛料の名が付く鳥

サンショウクイがヒリヒリと鳴くのは山椒の実を食べたからとされる。ミソサザイのミソは溝、小川の意で味噌ではない。ハッカチョウは飛ぶと、白斑がハの字に見えることからようで、ハッカからではない。日本産の鳥で英名にCinnamon(シナモン)が付くものに、ニュウナイスズメ、リュウキュウヨシゴイがいるが、赤茶色からきている。

(神奈川「はばたき」NO. 559, P4)

・サシバの里から

小田原市で田んぼを借りて、サシバ復活を目指している。9月、田にネットを張り、猪の害を減らすとの農家の意見、効果は？ 9/28、サシバ1羽が上空を渡り、矢倉岳の方へ行った(矢倉岳では今期2,808羽のサシバが通過)。1反にも満たない湿田で機械は入らず、手刈りで沼代棚田サシバ米が収穫できた。棚田の未来は明るくない。

<https://www.townnews.co.jp/0607/2016/07/23/341657.html>

(神奈川「はばたき」NO. 559, P5)

●2019/1 筑豊

・メグロ

メグロは一属一種の世界的希少種である。小笠原ではメジロより多い感じ。パパイヤの実を好んで食べる。小笠原諸島は元禄年間に来日したオランダ人が無人島(ぶにんしま)と聞き、Bonin Islandと呼ばれる。同諸島の野鳥はBonin・・・が付く、メグロはBonin White-eyeと言う。メグロ以外に日本固有種はヤマドリ、キジ、ヤンバルクイナ、アマミヤマシギ、アオゲラ、ノグチゲラ、ルリカケス、オオトラツグミ、アカコッコ、アカヒゲ、カヤクグリ、セグロセキレイの12種がいる。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 491, P45~46)

・オシドリの世界

越冬中のオシドリは警戒心が強く、落葉を踏んで「カサッ」と音を立てても奥へ逃げてしまう。更に、林に逃げて高さ10m近く樹に登って姿を消す。夜間にイノシシが出て、その音には反応しない。水の中に獣は入らないことを知っている。繁殖期に韓国で見たオシド

リ番はこれ程神経質でなく、非繁殖期は集団でいる命の延命が優先なのであろう。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 491, P49~50)

・探鳥会で外来種駆除は許されるのか

本部から「探鳥会スタッフ通信」が届くが、2018/11号に探鳥会の時、アメリカザリガニを駆除するため、アメリカオニアザミを抜根する人を見て、ゴミ拾い等と同様大事であると参加者に説明していた。探鳥会では採集禁止の原則もあり、「増えて問題になっていない限り」積極的に駆除を推奨すべきではない。外来種である理由だけで、駆除拡大が正当化されないように。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 491, P51~53)

・かわいい鳥

今の時代、かわいい鳥として登場するのはシマエナガとフクロウ類である。2017年に雑誌BIRDERが行ったネットでのアンケートではかわいい鳥は、スズメ、エナガ、シマエナガ、シジュウカラ、メジロ、ミソサザイ、キクイタダキ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、コサマビタキ、ツバメ、ヒヨドリ、カワセミ、ルリビタキ、ヤマガラとあった。

(筑豊「野鳥だより・筑豊」NO. 491, P59)

NO. 922

●2019/1 いわき

・サバクヒタキ

●2019/1 東京

・地域の連携団体との交流

・研究部2019年の活動計画(研究部)

・カワセミ21世紀の東京都内繁殖状況(研究部)

●2019/1 神奈川

・古英語の名前を持つ鳥

・丹沢の再生を考える(編集部)

●2019/1 長崎

・ハチクマ講演会・観察会(9/26長崎新聞)

・洋上風力発電中止を要請(10/8長崎新聞)

・第21回長崎県民鳥オシドリ・斉カウント調査

・ヒヨドリの動き

●2018/12 熊本県

・クロツラヘラサギ・ズグロカモメ・斉調査

●2019/1 いわき

・サバクヒタキ

10/28~29、海岸でサバクヒタキオスを見る。福島県初記録。サバクヒタキはアフリカ北部、トルコから中央アジア、チベット、モンゴル方面で繁殖し、アラビア半島、インドで越冬する。

(いわき「かもめ」NO. 141, P1)

●2019/1 東京

・地域の連携団体との交流

支部活動でご協力頂いた自然保護団体：日本野鳥の会本部、生態教育センター、日本自然保護協会、えどがわエコセンター、ラムサール・ネットワーク日本、鳥類園友の会等。国際交流も視野に入れて活動する。

(東京「ユリカモメ」NO. 759, P3)

・研究部 2019 年の活動計画

東京湾のミヤコドリの生態調査、カワセミの繁殖状況調査、オオタカ・ツミの生息実態調査、東京都鳥類繁殖分布調査、新東京都産鳥類目録作成準備、月例探鳥会データ CD-RPM 化、報告書「とうきょうのカモたち」作成。毎月 1 回研究部例会を持つ。支部 HP に情報をアップするので、会員の参加求める。

(東京「ユリカモメ」NO. 759, P16)

・カワセミ 21 世紀の東京都内繁殖状況 (研究部)

嘗て、カワセミは東京では幻の鳥と言われるまで減少したが、1980 年代に復活した。23 区内の繁殖は人工物利用が主流であるが、数年利用しても、人が巣穴をメンテナンスしなくなると、その後、飛来しなくなる例が多い。排水パイプ利用例は皇居内に報告あるが、23 区内では少ない。

(東京「ユリカモメ」NO. 759, P17)

●2019/1 神奈川

・古英語の名前を持つ鳥

ベニヒワ Redpoll の poll は投票ではなく、(馬の)うなじ(頭)の意で、赤い額である。ジョウビタキの Redstart の start は古英語で尾を意味し、赤い尾になる。サバクヒタキの仲間 Wheatear は(麦の穂)ではなく、white ass(白い尾)→whiters(白い尾をしたもの)→wheatear と新しい語が作られた(逆成語)。現代人は本来の意味を理解しているのだろうか。

(神奈川「はばたき」NO. 560, P6)

・丹沢の再生を考える(編集部)

11/15、横浜市で丹沢ブナ党シンポジウム「熊が生きる丹沢の再生を考える」が開催された。東京農工大小池信介氏の記念講演でツキノワグマの特徴説明、熊は保護する動物から管理する動物に変わりつつあるとあった。丹沢ツキノワグマ研究会の長縄今日子氏から丹沢の状況説明、2006 年頃よりドングリ類の不作で山麓に熊が見られるとあった。県自然環境保全課の羽太博樹氏から丹沢山地で熊の生息数 40 頭程度、山へ追い返し、捕殺は止むを得ない場合のみとあった。かながわ鳥獣被害対策支援センターの坂口裕佳氏から近くに熊の埒、隠れ場を作らせないとあった。

(神奈川「はばたき」NO. 560, P12)

●2019/1 長崎

・ハチクマ講演会・観察会(9/26 長崎新聞)

ハチクマが五島列島を通り、中国大陸に渡るのを確認して 30 年、9/23、24、五島市でそれを記念した講演会、観察会があった。東大名誉教授樋口広芳氏のハチクマの渡りルートの説明があり、長崎大環境科学部山口頭之准教授はハチクマは秋に東風の追風を利用しているが、温暖化で風向きが変わり、渡りに影響が出るかもとあった。

(長崎「つばさ」NO. 373, P1~7)

・洋上風力発電中止を要請(10/8 長崎新聞)

五島市沖で環境省が実証検査を終えた浮体式洋上風力発電 1 基の後、戸田建設は 2021 年までに新たに 9 基を計画し、現在、環境影響書評価の手段中。市民団体

「五島自然環境ネットワーク」は同域でカツオドリ集団生息を確認したとして、9/30、事業計画の一時中止と、再調査を求める意見書を長崎県知事、五島市長、戸田建設に提出した。

(長崎「つばさ」NO. 373, P9)

・第 21 回長崎県民鳥オシドリ一斉カウント調査

2018/1/3、離島を含む長崎県内 116 箇所を調査した。オス 1241、メス 640、不明 72、総計 1,953 羽であった。

(長崎「つばさ」NO. 373, P10~15)

・ヒヨドリの動き

ヒヨドリの出現率は殆ど 100%であるが、長崎県吾妻町での早朝探鳥会(計 756 回)では、9 月のみ 7 割程度に急落する。同記録を日の出前に限定すると、4 月、9 月は 3 割程度まで下がる。ヒヨドリは早朝より煩く鳴くが、4 月、9 月は短期間であるが静かになる。

(長崎「つばさ」NO. 373, P18~19)

●2018/12 熊本県

・クロツラヘラサギ・ズグロカモメ一斉調査

2018/1/21、熊本県内で満潮に向けて一斉カウントした。結果はヘラサギ 7、クロツラヘラサギ 171(成 59、若 22、不明 90)、ズグロカモメ 1,248 であった。この調査はアジア地域のクロツラヘラサギ一斉調査に合わせて行われ、香港観鳥会の集計では、アジア地区で 3,941 羽で前年と大差無し。日本では 2014 年:350、2015 年:371、2016 年:383、2017 年:433、2018 年:508 と増加中で、内陸の湖沼に分散されつつある。脚に標識リングを付け、行動調査もされている。結果は台湾黒面琵鷺保育学会の HP で日本語にも対応。7/16、山口市のきらら浜自然観察公園で日本クロツラヘラサギネットワーク年次報告会があり、飼養ケージを作成中。

(熊本県「野鳥くまもと」NO. 369, P8~9)

NO. 923

●2019/1 奥多摩

- ・ヨシ原の保全作業
- ・ハジロミズナギドリ
- ・奥多摩のユリカモメ

●2019/1 三重

- ・フクロウの飼育に思う
- ・カラフトアオアシシギ

●2019/1 奈良

- ・野鳥写真の整理術
- ・ミヤマガラス(事務局)

●2019/1 大阪

- ・大阪で冬に会えるホオジロ類
- ・オオジュリンの越冬ルート
- ・オオジュリン
- ・2018 年ガンカモ類生息調査結果(ガンカモ調査プロジェクト)

●2019/1 北九州

- ・カラアカハラ
- ・「野鳥の会」・・・ですが、もっと野草に関心を(事務局)

●2019/1 奥多摩

・ヨシ原の保全作業

多摩川羽村堰下ヨシ原の保全作業。11/18 猪が餌取のため地面を掘り返す。フライングキャッチするノビタキが12月下旬まで滞在。ツルヨシの間にカヤネズミの巣を見る。12/16 多摩川本流に一番近い水路を開き、作業後は1年のしめくくり「保全鍋」を行い、皆でトン汁を食べた。

(奥多摩「多摩の鳥」NO. 246, P11)

・ハジロミズナギドリ

10/1、日野市の多摩川でハジロミズナギドリが北から飛来し、川を横断し南へ行った後、最後は下流へ低く飛び去る(写真有)。奥多摩フィールド内初記録。

(奥多摩「多摩の鳥」NO. 246, P21)

・奥多摩のユリカモメ

1996年までユリカモメは多数、多摩川の上流まで遡上していた。1997年から急激に減ったのは1998年、東京湾のごみ処理場が閉鎖されたためと考えられる。2007/4、奥多摩湖にユリカモメ1、多摩川最上部の記録である。

(奥多摩「多摩の鳥」NO. 246, P23)

●2019/1 三重

・フクロウの飼育に思う

店内でフクロウを飼育し、人に愛くるしい仕草を見せる店がある。日本のフクロウは捕獲飼育することは禁じられている。輸入種であろう。これら飼育されたフクロウ類が野外に出て繁殖した時は、食物連鎖の頂点近くにいる種であるので、生態系へ与える影響が大きい。日本は率先してワシントン条約でフクロウ類の輸出入を全面的に禁止に動くべきである。

(三重「しろちどり」NO. 98, P2~3)

・カラフトアオアシシギ

カラフトアオアシシギは東アジアに生息し、サハリン、オホーツク海東岸で繁殖し、マレー半島、スマトラ島で越冬する(大陸沿岸が主な渡りルートの可能性が高い)。世界の推定個体数は600~1300(IUCNによる)で、南アジアの越冬数は850~950(C. Zöckler)ともある。黒田長礼氏が1935年、樺太南部で繁殖を確認しており、日本では、毎年数羽が記録される。9/3、三重県で16年ぶりに記録された。

(三重「しろちどり」NO. 98, P14~15)

●2019/1 奈良

・野鳥写真の整理術

フォトタッチ(画像調整)はPhotoshopElements(1万5千円程度)を使い、画素数を2000×1500程度に縮小している。パソコンのマイピクチャに種名ファイル名で入れると、アイウエ順に並んでくれる。

(奈良「いかる」NO. 164, P2~3)

・ミヤマガラス(事務局)

10/20、奈良市内の田んぼでミヤマガラスが撮影された。奈良県初記録。奈良県鳥類に新規追加した。

(奈良「いかる」NO. 164, P13)

●2019/1 大阪

・大阪で冬に会えるホオジロ類

大阪で記録があるホオジロ類はホオジロ科の13種とツメナガホオジロ科の1種、計14種であるが、迷鳥として1度しか記録がないキマユホオジロと春秋に見られるノジコを除くと冬は12種(ツメナガホオジロ(迷鳥)、ホオジロ、ホオアカ、コホオアカ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジ、シベリアジュリン(迷鳥)、コジュリン(迷鳥)、オオジュリン、キガシラシトド(迷鳥))である。ユキホオジロ、シラガホオジロは今後、大阪でも見られる可能性がある。

(大阪「むくどり通信」NO. 256, P4~9)

・オオジュリンの越冬ルート

淀川十三干潟で鳥類標識調査をしている。毎年、11月にオオジュリンが飛来し、11/20頃、早朝、群れで行動し、3月末まで見られる。標識調査で同地には九州今津干潟、北海道釧路から飛来していた。再捕獲(リターン)の例から5年以上の寿命がある。

(大阪「むくどり通信」NO. 256, P10)

・オオジュリン

オオジュリンはユーラシア大陸中高緯度地域に広く分布し、15~20亜種に分かれる。日本で見られるオオジュリンは亜種 *pyrrhulina* で欧州の嘴の太い種と同じくらいの嘴を持つ(茂田 1992)。越冬期、ヨシの葉鞘をむく行動からヨシの中の昆虫を食べているとされるが、地上で草木の種を主に食べるとも考えられる(以前はその姿が多く見られ、ヨシ原は退避場所?)。ヨシのカイガラムシの1種(ビワコカタカイガラモドキ)を食べるとされる。他にも虫が付き、メジロ、エナガ、シジュウカラもヨシ原で虫を食べるので、競合状態等調べてみる必要がある。

(大阪「むくどり通信」NO. 256, P11)

・2018年ガンカモ類生息調査結果(ガンカモ調査プロジェクト)

観察記録内訳数は略。ホシハジロ、ヒドリガモ、スズガモはこの10年、右肩下がりで減少している。ホシハジロは国際自然保護連合(IUCN)の絶滅危惧Ⅱ類に指定され、この3種は推移を注意深く見守る。

(大阪「むくどり通信」NO. 256, P19)

●2019/1 北九州

・カラアカハラ

11/13、北九州市の山田緑地でカラアカハラが標識調査で捕獲された。ツグミの仲間で主に日本海側の小島で渡りの時期に確認されているが稀である。北九州の野鳥一覧(2007)には記載がなく、今回初記録として残す。

(北九州「北九州野鳥」NO. 391, P13)

・「野鳥の会」・・・ですが、もっと野草に関心を(事務局)

小鳥類は子育て時期は昆虫類を餌とし、その幼虫は植物の葉を食べている。日本の在来植物は野草が7割を占め、これらが生育し、葉を食べる虫、花粉を食べる虫、それらを野鳥が捕食することで適正な生態系が保たれる。野草は適度に刈られて、たくましい植物とし

て残っていく。
(北九州「北九州野鳥」NO. 391, P14)

(自然保護室・野鳥の会・神奈川／森 要)

◆事務局からのお知らせなど

■会員室より

■ゆうちょ銀行の引き落とし手数料変更について

ゆうちょ銀行の引き落とし手数料値上げに伴い、会費自動引き落とし(ゆうちょ銀行)をご利用の方は、2019年4月1日より引き落とし手数料が値上げとなります。誠に申し訳ございませんが、何卒ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

【ゆうちょ銀行 引き落とし手数料】
2019年3月31日まで：10円
↓
2019年4月1日より：32円

(会員室／佐藤 ゆき乃)

■会員数

2月1日の会員数は34,579人で、先月と比べ11人減少しました。

1月の入会・退会者数の表をみますと、入会者数は退会者数より24人少なくなっています。

会員の増減は入会者数と退会者数のほかに、会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活した人数によって決まります。

1月の入会者数は143人で、前年同月の入会者数162人と比べ19人減少しました。

また、1月の退会者数は167人で、前年同月の退会者数168人と比べ1人減少しました。

表 1.1 月の入会・退会者数

	入会者数	退会者数
個人特別会員	11 人	7 人
総合会員(おおぞら会員)	24 人	44 人
本部型会員(青い鳥会員)	39 人	29 人
支部型会員(赤い鳥会員)	46 人	59 人
家族会員	23 人	28 人
合計	143 人	167 人
年度累計	1,567 人	※

※会費切れ退会となった後に会費が支払われ会員として復活する方がいらっしゃるため、退会者数の年度累計は、実際の退会者数とずれた数字となります。

■都道府県および支部別会員数

野鳥誌贈呈者数を除いた数を掲載します。

表 2. 都道府県別の会員数(2月1日現在)

都道府県	会員数	対前月差
北海道	1,660 人	-4 人
青森県	242 人	1 人
岩手県	366 人	0 人
宮城県	469 人	3 人
秋田県	248 人	-2 人
山形県	218 人	2 人
福島県	616 人	-2 人
茨城県	889 人	-1 人
栃木県	645 人	-1 人
群馬県	617 人	-2 人
埼玉県	2,104 人	-14 人
千葉県	1,592 人	-1 人
東京都	4,807 人	5 人
神奈川県	3,314 人	1 人
新潟県	364 人	-1 人
富山県	201 人	0 人
石川県	267 人	-1 人
福井県	218 人	-1 人
山梨県	261 人	0 人
長野県	845 人	-6 人
岐阜県	465 人	0 人
静岡県	1,313 人	0 人
愛知県	1,510 人	-2 人
三重県	429 人	2 人
滋賀県	298 人	0 人
京都府	815 人	10 人
大阪府	1,984 人	-7 人
兵庫県	1,288 人	0 人
奈良県	494 人	1 人
和歌山県	188 人	3 人
鳥取県	181 人	2 人
島根県	172 人	2 人
岡山県	557 人	-4 人
広島県	556 人	1 人
山口県	371 人	3 人
徳島県	315 人	-1 人
香川県	190 人	-1 人
愛媛県	354 人	2 人
高知県	127 人	1 人
福岡県	1,283 人	-5 人
佐賀県	192 人	0 人
長崎県	211 人	3 人
熊本県	393 人	1 人
大分県	223 人	0 人
宮崎県	251 人	0 人
鹿児島県	321 人	1 人
沖縄県	109 人	0 人
海外	11 人	0 人

不明	35 人	1 人
全国	34,579 人	-11 人

備考：不明は転居先が不明の会員を示します。

表 3. 支部別の会員数（2 月 1 日現在）

支部	会員数	対前月差
オホーツク支部	239 人	-2 人
根室支部	80 人	0 人
釧路支部	157 人	0 人
十勝支部	177 人	-2 人
旭川支部	84 人	2 人
滝川支部	47 人	0 人
道北支部	29 人	0 人
江別支部	18 人	0 人
札幌支部	295 人	-5 人
小樽支部	65 人	1 人
苫小牧支部	162 人	1 人
室蘭支部	152 人	1 人
函館支部	24 人	0 人
道南釧路	58 人	-1 人
青森県支部	133 人	0 人
弘前支部	110 人	0 人
秋田県支部	237 人	-2 人
山形県支部	203 人	1 人
宮古支部	86 人	-1 人
もりおか	156 人	-1 人
北上支部	101 人	-1 人
宮城県支部	438 人	3 人
ふくしま	159 人	0 人
郡山支部	162 人	-1 人
二本松	9 人	-1 人
白河支部	43 人	0 人
会津支部	55 人	-1 人
奥会津連合	7 人	-1 人
いわき支部	106 人	-1 人
福島県相双支部	15 人	0 人
南相馬	14 人	0 人
茨城県	794 人	1 人
栃木県支部	626 人	0 人
群馬	533 人	-2 人
吾妻	42 人	0 人
埼玉	1,577 人	-10 人
千葉県	1,019 人	-4 人
東京	2,749 人	-5 人
奥多摩支部	828 人	-1 人
神奈川支部	2,291 人	-12 人
新潟県	273 人	-1 人
佐渡支部	31 人	0 人
富山	185 人	1 人
石川	251 人	-1 人
福井県	211 人	0 人

長野支部	446 人	-1 人
軽井沢支部	162 人	-2 人
諏訪支部	231 人	1 人
木曽支部	20 人	0 人
伊那谷支部	80 人	-1 人
甲府支部	180 人	0 人
富士山麓支部	56 人	0 人
東富士	60 人	0 人
沼津支部	158 人	-1 人
南富士支部	253 人	-4 人
南伊豆	37 人	0 人
静岡支部	341 人	1 人
遠江	395 人	1 人
愛知県支部	1,106 人	2 人
岐阜	464 人	-2 人
三重	365 人	1 人
奈良支部	447 人	0 人
和歌山県支部	188 人	3 人
滋賀	300 人	0 人
京都支部	769 人	0 人
大阪支部	1,881 人	-11 人
ひょうご	975 人	-1 人
鳥取県支部	202 人	0 人
島根県支部	157 人	2 人
岡山県支部	526 人	-2 人
広島県支部	484 人	1 人
山口県支部	340 人	1 人
香川県支部	151 人	-2 人
徳島県支部	329 人	-1 人
高知支部	114 人	1 人
愛媛	329 人	1 人
北九州支部	298 人	3 人
福岡支部	560 人	-3 人
筑豊支部	241 人	0 人
筑後支部	159 人	-2 人
佐賀県支部	225 人	2 人
長崎県支部	192 人	3 人
熊本県支部	391 人	1 人
大分県支部	216 人	0 人
宮崎県支部	246 人	0 人
鹿児島	294 人	1 人
やんばる支部	73 人	0 人
石垣島支部	19 人	-1 人
西表支部	45 人	1 人
	29,536 人	-53 人

備考：支部別の会員数の合計は、都道府県別の会員数の合計と異なります。これは、本部型（青い鳥）会員や支部に所属されていない個人特別会員が支部別の会員数に含まれないためです。

（会員室／佐藤 ゆき乃）

支部ネット担当より

日の出の時刻がだんだん早くなり、次の季節へ移っていると感じます。みなさまいかがお過ごしでしょうか。いつも支部ネット通信をご愛読いただき有難うございます。今月は、2019 年 4 月 1 日より、ゆうちょ銀行の引き落とし手数料変更になることについてお知らせを掲載しています。どうぞよろしくお願いいたします。

■支部ネット通信は支部の代表の方に電子メールでも配信をしています。電子メールでの配信を希望される支部の代表の方は下記メールアドレスまでお気軽にお申し込みください。

日本野鳥の会

支部ネット通信

第 179 号

◆発行

公益財団法人日本野鳥の会 2019 年 2 月 26 日

◆担当

総務室 総務グループ

林山雅子/松本直子

〒141-0031

東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

TEL : 03-5436-2620

FAX : 03-5436-2635

E-mail : sibu-net@wbsj.org
